

科目名	開講時期	開講学年	必 / 選	8 単位 (360h)
助産学実習 I	通年	4 年		
担当教員名	電子メール	オフィスアワー		
◎湯舟邦子・黒崎治美	kuniko.yubune@tohto.ac.jp	適宜（メールにて事前連絡）		

授業の概要

助産学実習は、個性のある分娩経過の実際を主体的に特定の受け持ちを通して学ぶと共に、分娩介助の主体者として分娩介助技術や助産ケアの実際を経験する。具体的にはローリスクにある分娩期の妊婦を受け持ち、分娩期の助産過程を展開し、助産ケアの実践と指導の下で分娩介助 10 例を経験する。分娩期の助産過程は分娩予測や妊婦・胎児の健康状態を 継続的に観察するなど、助産診断に基づき、計画性のある助産ケアを実施・評価する。また産婦にとって安全・安心で満足度の高い分娩経験となるように、指導助産師や医師などとの協働・連携を高め行動する。臨地特有の学びとして、正常を逸脱し 異常に移行した分娩期および産褥期における緊急時の対応についても学ぶ。

キーワード	到達目標
分娩介助 助産診断 健康診査 助産ケア 周産期の保健指導 家族ケア バースレビュー	1. ローリスク分娩が予測される妊婦を受け持ち、分娩第1期から助産過程を展開し、助産師又は医師の指導の下、学生一人につき 10 例の分娩介助を経験できる。 2. 分娩介助に関わる一連の過程は、チーム医療の一員として安全・安心の確保や責任の範囲を明確に認識し行動できる。 3. 助産学生として真摯で誠実な態度で関わる対象や指導者との信頼ある人間関係を構築し、報連相の活用を含めて、学ぶものに希求される態度・行動を明確にできる。 4. 分娩期の段階的達成目標を認識し行動できる。

授業の計画・形式

第 1 週	実習に関する具体的な内容は、助産学実習手引き を参照のこと。
第 2 週	以下、第1回目記載に同じ。

教科書、参考書

教科書	
参考書	日本助産診断・実践研究会編：マタニティ看護診断ガイドブック第 5 版,医学書院,2015 助産学講座 テキスト 5～8,医学書院 講義で学んだ全ての授業資料、テキスト

受講要件

助産師課程の専攻学生で、助産師課程の必修科目・選択科目のうち 4 年前期までの科目を履修した学生

成績評価

本試験（実践）	小テスト	レポート（実習記録）	成果発表（口頭・演習）	その他	合計
70%	10%	20%	0%	0%	100%

担当教員からのメッセージ

長期間におよぶ実習であり、忍耐や体力・知力を求められる。自己の体調管理には十分留意し、自らの目的意識を持続し実りある実習となるように、心身ともにしっかりと準備をして臨んで下さい。分娩介助技法実技試験合格後実習開始となります。